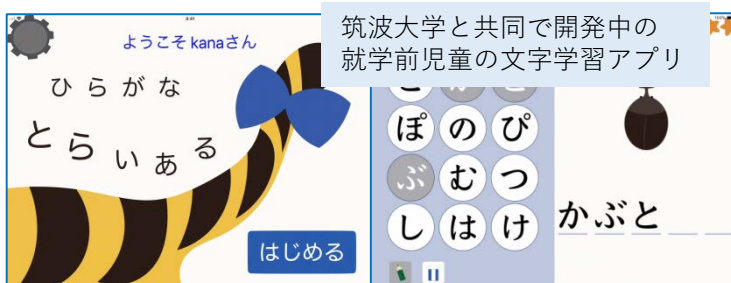


発達障がい児の行動・学習支援のためのICT応用

総合理工学部 教授 縄手 雅彦

我々の研究グループでは、発達障がいを主因とする学校現場での学習に困難を抱える児童・生徒に対する学習支援の手法としてゲーム形式のソフトウェアを用いた学習について取り組んでいます。読み書きや数の概念理解などの基本的な学習からADHD児の行動支援やワーキングメモリ訓練まで、幅広く学習や訓練をゲーム化しており、ソフトの提供先はこれまで1000か所を越えています。

また、ディスレクシア（読み書き障がい）を持つお子さんの早期発見のための学校現場で教員が簡単に実施できる簡易スクリーニング検査である「ELC」や、T式（旧鳥取大学方式）で使用する語彙指導アプリなど、実際に先進的な取り組みを行っている研究者と共同でソフトウェアを開発し、書籍やAppStoreへのアプリ登録などで、広く多くの方に使用できるように貢献しています。



こどもの特性や興味に合わせた
様々な形式の学習ゲーム